

[ 文献紹介 ]

## 偶目『反攻』半月刊

西村 成雄

はじめに

国民政府重慶時代の出版物は、その歴史的條件からいって、日本においては所蔵される機会の少ないものの一つであろう。機会あってフェアバンク・センターに滞在時、ハーバード・イエンチン図書館所蔵の『反攻』半月刊を見ることができた。もちろん、不揃いであり、その意味でほんの一部に目を通したことにしかならないが、すでにこの雑誌名を聞き及んでいた筆者は、重慶時代の東北流亡知識人の思想的組織的動向を知るうえで不可欠のものであるという認識をより深くすることとなった。

ここに、偶目した『反攻』半月刊の目次を掲載させていただき、1931年以来、重慶にまで流亡することとなった東北人の社会的活動の一端をご覧いただければ幸いである。なお、本稿の整理に際し、社会人大学院ゼミに参加された岡田幸子氏、笹川恵美子氏、梁真規氏の援助を受けた。記して深謝申しあげる。

解題

1937年4月上海で準備された東北救亡総会（東総）は、周恩来の意見にもとづき、第一に国共合作・共同抗戦・共同建国をめざし、第二に張学良將軍の救出、第三に東北抗日聯軍支援を目的として、組織された。その責任者は高崇民で、閻宝航、栗又文、李廷祿らが参加していた。その後、6月20日には北平西城崇元觀5号にあった東北大学礼堂で、正式な東北救亡総会の成立大会が開催された。当時、北平には東北救亡団体は16あり、その中では東北人民抗日救亡聯合会（東聯）が最大で、于毅夫、李廷祿、張克威、趙濯華、張希堯らが指導していた。これらを統一的組織としたのが東総である。北平で開催された成立大会で選出された約30余人からなる常務委員会が指導機関となり、執行委員として高崇民、閻宝航、車向忱、陳先舟、盧廣積らが就任し、秘書長に

栗又文が就いた<sup>(1)</sup>。

7・7事変後、8月8日北平に日本軍が入ってから、高崇民らは天津を経て済南に避難し、同時に東総山東分会を組織、東北からの難民受け入れにあたった。その後、太原に移り、同じく太原分会を組織し、東北軍の張廷枢や張政枋らによる遊撃縦隊の編成に協力した。1937年9月23日、国共合作が成った後、東総は南京芦席營の閻宝航宅に本部を移し、執行委員制を主席団制に変更し、国民党と関係のある「東北著名愛国人士」である王化一や王卓然を主席団に加え、7人で指導することとなった。そして、国民政府の武漢移転とともに、東総も武昌明月橋の順直会館に移った。1938年1月19日武昌で開催された東総主席団会議は、「東北人の広範な団結運動」であることを強調していた。この時、新たに、秘書長に于炳然、組織部長に高崇民、宣伝部長兼『反攻』半月刊主編に于毅夫、訓練部長に徐寿軒、連絡部長に陳先舟らが就任した。ここに『反攻』半月刊が創刊されることになったのである。

この間、1937年末には高崇民によって東総河南分会、開封に東総通迅処を組織したが、その地域は東北軍の駐留地でもあった。1938年3月初め、同じく西安にも分会を設置した。

『反攻』半月刊は、武漢では盧廣積を社長名義として、国民党中央宣伝部に登録し、于毅夫主編、席夢覚副主編、石光編集組長という陣容で、1940年初の創刊二周年ごろには2万部を発行するまでの規模になっていた。この頃すでに重慶に移った東総は、『反攻』半月刊を、王化一発行人、王卓然主編という名義で国民政府内政部に再度登録していた。ただ、1941年1月の皖南事変までは于毅夫が主編を務めており、執筆者陣には次のような人物が網羅されていた。肖軍、肖紅、駱賓基、師田年、石光、閔夢覚、姜克夫、李輝芳、黒工、曾克、高蘭、楊朔、穆木夫、孔羅孫、舒群、羅烽、白朗、韓幽桐らである。

編集委員は全部で62人であったが、国民党の東総に対する抑圧と弾圧が強化され、かつ1941年1月の皖南事変後は多くの執筆者が重慶を離れるという状況に陥った。1942年に入ると東総そのものが国民党により解散命令を受けたが、『反攻』半月刊は高崇民によって維持された。出版社も東北救亡總會から反攻半月刊社（「反攻雜誌社」の銘版は郭沫若の筆になる）となった。周恩来は「『反攻』という名が存する限り、蒋介石は東北を売りはらうことは困難

だろう」と述べたという。

1942年、43年という困難な時代をつうじて、高崇民は『反攻』半月刊を維持し続け、44年になって郭沫若の抗敵文化工作委員会（文委）のもとで働いていた劉砥方とその妻緑川映子（長谷川照子）が反攻雑誌社の編集に加わった。この過程で、1944年9月18日の『反攻』第16巻からは主編人王卓然、発行人王化一の名を削り、45年3、4月には東総を改組して、東北民主政治協会を組織して、戦後への政治的準備を強化した。そして、1945年8月の日本敗北後、『反攻』半月刊は、9月18日最後の号を発行して、終刊となった。この号で、高崇民は「わが希望」と題する文章を書き、「政治的に罪をかぶり今なお幽閉されている戦士、張漢卿」を思いおこし、共に東北へ帰ることのできないことを慨嘆した。

『反攻』半月刊は、1938年初から1945年9月までの長期間、大後方での出版物として、また救亡救国運動を担った雑誌として、その役割は大きなものがあったといえるだろう。

(1) 執行委員以外の主なメンバーは次のとおり。杜重遠、李廷祿、劉瀾波、苗勃然、王毅夫、張希堯、王之相、鄒大鵬、張濯華、于炳然、白乙化、張慶泰などであった。

[参考文献]

近琴・白竟凡・高凌主編『高崇民伝』人民日報出版社、1991年。

白竟凡・魯煤編著『憶高崇民同志』華齡出版社、1992年

## 目 録

### 第5巻3期（中華民国28年4月16日）

論国民精神總動員	于炳然
英国外交「肯定」的趨向	侯外廬
抗戦建国過程中的經濟建設	沈志遠講
希特勒統治六年的德国（下）	孟用潛訳
遊撃区的砦産	盧廣声訳
晋冀察区最近的抗戦形勢	光天
開除汪逆兆銘的国籍	小評
華北通信	王向予
待命在黄河涯	豊原
信箱	仲卿等

### 第5巻4期（中華民国28年5月1日）

短評 擁護蔣委員長的談話（毅夫）  
擴大反侵略陣線（野）  
風起雲湧的敵國反戰運動（鄰江）  
對東北問題的正確認識（公衡）

紀念革命的五月  
抗戰與外交  
建立淪陷區的政權充實遊擊隊的实力  
華北戰場敵偽軍工作的經驗和教訓（上）  
一段訓練俘虜的經驗  
「北滿」旅行記  
浙江的游擊隊  
平津倭寇的暴行  
烽火中的衡陽  
渡黃河（文芸）  
信箱

于毅夫  
程希孟  
鰲西  
光天  
劉景祥  
廣声訊  
李秉忱  
紀清漪  
平平  
張周  
周鵬程

#### 第5卷5期（中華民國28年6月1日）

短評 在建立中的國際反侵略陣營（炳然）  
消除不良的傾向（成城）  
粉碎敵人的恐怖政策（野）

論戰區的幹部訓練問題  
日本的物資動員計劃  
敬贈三峽志願軍  
日本軍閥底原形  
活躍在晉西北的工人武裝自衛隊  
華北戰場敵偽軍工作的經驗和教訓（下）  
北滿旅行記（下）  
侵略者的戰爭理論  
濟南會戰的回憶  
新兵工作經驗談  
職業（文芸）

閔夢覺  
景祥  
陶行知  
仲航  
陳志遠  
光天  
廣声訊  
鐵弦  
姜克夫  
丘琴  
羅蓀

#### 第5卷6期·6卷1期合刊（中華民國28年7月1日）

論敵人新攻勢的特点（社論）  
七七的兩年  
論法西斯軍事同盟  
淪陷區域需要怎樣的政權  
晉冀視察記（上）  
抗戰建國二週年追念為國損軀的二教授  
敬悼唐聚五司令

逸凡  
張申府  
王伯綱  
張友漁  
張浦  
張友漁  
編者

日寇对我東北經濟榨取之強化	韓幽桐
偽滿重新劃分為兩省（特稿）	
蘆溝橋事變實地考察記	于毅夫
桐柏山進軍	梁木
在陳誠將軍的招待會上從西安到晉南（通訊）	樂然

**第6卷 期（中華民國28年8月1日）**

英法蘇三国協定談判的面面觀	于炳然
晋西南呂梁山抗日根拠地（上）	孫達可
最近偽滿的動態	鄰江
華北文化界抗敵座談雜記	臧雲遠
記馬占山將軍	王卓然
敵兵日記	張香山訊
戰鬥中的故事（報告）	曾克

**第6卷4期（中華民國28年8月16日）**

對於英日談判的正確認識	于毅夫
中国農村經濟的新動向（上）	閔夢覺
晋西南呂梁山抗日根拠地（中）	孫達可
偽蒙古軍的現況	王介
孤島近訊	守玄
晋西南的民衆組織與武裝	陳剛
我懷念呂梁山	黑丁

**第6卷5期（中華民國28年9月1日）**

短評 蘇德簽訂互不侵犯條約	
討汪與鋤奸	
英日關係的蠢測	
所望於第四屆國民參政會者	于炳然
中国農民經濟的新動向（下）	閔夢覺
晋西南呂梁山抗日根拠地（下）	孫達可
敵軍五台作戰命令	北鷗
偽滿產業開發計劃的真相	非石訊
日軍封鎖天津實況	特稿
游擊區小消息	
東方法西斯的葬幃	臧雲遠
長征散記（小品）	石光

**第6卷6期（中華民國28年9月16日）**

日偽宰割下的東北現況（地圖）	
----------------	--

「九一八」八週年	于毅夫
歐州戰爭與中國抗戰	成澤
抗戰二年來的東北抗日聯軍	劉丕光
偽滿政治機構的剖視	非石
游擊區小消息	丘琴
東北人對東北問題的意見	
日寇擄取東北經濟的新段階	閔夢覺
日寇控制下的東北鐵路島嶼	王向予
王德林將軍	劉達人
八年來敵人在東北的「移民」	于炳然
日寇掠奪我東北的新花樣	石光
日寇占領我東北八年得着些什麼	沈默
他們是健康的	羅蓀

第7卷1期（中華民國28年10月1日）

短評 慶祝雙十聲討汪逆	石光
歡迎「憲政」	譚譚
加強反「掃蕩」的工作	毅夫
波蘭崩潰後的歐州形勢	閔夢覺
對敵「掃蕩」作戰的研究	景毅
東北義勇軍的反「掃蕩」	特稿
反「掃蕩」特輯（上）	
晉東南的反「掃蕩」戰	丘琴
在晉東南的「掃蕩」圈內	樂然
東總華北分會致總會的信	
遊擊區小消息	編者
游擊區反「掃蕩」的幾個重要經	特輯
晉察冀區怎樣粉碎敵人進攻（上）	陸定一
「九一八」小紀	記者
長征散記——小品	石光

第7卷2期（中華民國28年10月16日）

短評 歐局和戰的關鍵	非石
長沙勝利以後	譚譚
紀念魯迅先生	石光
我們對於實施憲政的意見	于毅夫
論日寇「以戰養戰」的陰謀	閔夢覺
偽滿最近的動態	非石
反「掃蕩」特輯（下）	

江南我軍怎樣在回答着敵人的「掃蕩」	正民
敵寇宣傳毒素的分析	王向予
空室清野與清除漢奸	滌非
李品仙將軍談鄂北大戰	田濤
晉察冀區怎樣粉碎敵人進攻（下）	
踏進中條山	輝英
募寒衣—工作特寫	丘琴
長征散記—小品	石英

**第7卷3期（中華民國28年11月1日）**

短評 對於憲政的期待	毅夫
濁浪排空的歐洲	諤諤
加強對美外交	逸凡
憲政問題座談	第二次會記錄
中國憲政運動的回顧與展望	沙千里
歐美憲政運動的發展階段	韓幽桐
憲政問題特輯	
空室清野的藏糧法	哲生
葉挺將軍談江南游擊戰	逸凡
日本資本主義的危機	靜遠
中華民國憲法草案	（專載）
國民大會代表選舉法	（專載）
前後方行記	張佐華

**第11卷5期（中華民國31年5月25日）**

論東北工作機構（代論）	王卓然
對東北同胞說幾句話	陳紀濤
拿出辦法，切實執行！	
渡過難關，爭取勝利！	林問樵
觀察當前戰局的起碼方法	楊太護
遼疆外交試論（遼疆問題研究）	王孝風
少年瑪哈瑪底秘密	蕭歌
敵偽研究—偽東邊道開發株式會社	陳先舟記
東北義勇軍鬪爭史話	石嘯冲
青年夢（青年問題）	王
魯迅憎惡的動物和昆蟲（二）	辛勤
草原上的春天（續二）	施提

**第12卷1期（中華民國 年 月 日）**

社論—對東北四省抗敵協會的希望	
-----------------	--

我愛東北  
談蕭紅作品  
毀欺滿的招降表  
東北義勇軍鬪爭史話  
不平等條約講話（下）  
群眾不是「大白菜」  
學習生活—漫談學習  
念起了 康  
小說—從北戰場帶來的故事  
黑土之歌（詩）  
編後

方紀  
松江  
復東  
石嘯冲  
王孝風  
文長  
王絮  
葉維民  
馬寒冰  
沈揚  
編者

第 12 卷 2・3 期（中華民國 年 月 日）

社論—紀念「九一八」十一週年  
準備反攻  
東北人應注意的幾件事  
十一週年的「九一八」  
要以我們的身手改造「九一八」的紀念意義  
「九一八」十一年—兩點見議  
建設新東北在產業上應作些甚麼準備  
東北問題的再檢討與東北青年的新認識  
東北的黑暗面與光明面  
回東北及建立文化兵  
起點與終點  
高粱粥不當稀米飯  
我的感覺  
黑龍江史地雜鈔  
（散文・詩）  
九一八在我的記憶裏  
四千多個日子  
九月的詩  
種子—給憂鬱的人  
談蕭紅作品（續前）  
樣救東北同胞（兒童作品）  
我們底希望（青年呼聲）  
編後

王卓然  
王化一  
高崇民  
王德溥  
張申府  
陳先舟  
閔吉  
石嘯冲  
陳紀濶  
羅蓀  
文長  
于新  
王孝風

沈慧  
劉黑柳  
李落  
白鳥  
松江  
王森  
金靖遠

第 12 卷 4 期（中華民國 31 年 10 月 25 日）

論東北目前政治機構  
短評 人類底「九一八」

王卓然

再建西北  
 戰後之東北  
 東北的土地問題  
 偽滿重要產業現狀  
 偽滿電影活動資料  
 東北難胞的救濟問題  
 血濺白螺（戰地通訊）  
 馬旅長（小說）  
 冷言冷語錄  
 詩—九月微寒的夜  
 東北青年園地  
     東北青年  
     倍江的濤声  
     在十八中高中部  
     埋葬童年的地方  
 編後

朱劍農  
 陳先舟  
 吳家盛  
 黎悠恬  
 維揚  
 沈慧  
 高崇民  
 柳筵  
  
 金敏  
 孔憲周  
 庭筠  
 小華

第 12 卷第 6 期（中華民國 31 年 12 月 25 日）

短評 所謂「東北問題」  
     東北四省府遷前方  
     同鄉會的工作重心  
 展望世界戰局  
 勝利在望與東北四省府  
 英國與東北  
 廢除不平等條約問題  
 萬懸的東北難胞  
 冷言冷語錄  
 東北青年  
     青年應有之認識  
     藍空裏未來之勇士  
     我們是時代的花（詩）  
 川鄂紀行  
 編後

丁殊  
 王卓然  
 王孝風  
 老鄉  
 松江  
 高崇民  
  
 朱法  
 劉黑枷  
 柳筵  
 紫微

第 13 卷第 1・2 期合刊（中華民國 年 月 日）

短評 軸心哲學  
     談新約  
     什麼時候回家  
 時論 反攻緬甸声中的一得之見

鄧初民

展視遠戰場	丁殊
七港會後之世界新形勢	方紀
日本研究	
明治維新與昭和維新（上）—關於日本歷史問題之一—	鹿地亘著 郭芳為訊
東北論壇	
東北真正的危機在那裏？	王卓然
東北鋁業概況（二統）	陳先舟
悲悲切切話關外	蕭藤
東北青年	
怎樣學習	周若兵
關心政治	松江
惆悵	金敏
信箱	
敵後的木刻	鐵華
才能（小說）	契訶夫作 李葦訊
冷言冷語錄	高崇民
介紹東北競存中學	白泉

第 13 卷 3 期（中華民國 32 年 4 月 25 日）

時論	
同盟國努力的方向	韓幽桐
戰後世界與戰後問題	孫承佩
世界戰局發展的動向	石嘯冲
日本研究	
「明治維新」與「昭和維新」（中）	
—關於日本歷史問題之一—	鹿地亘
東北論壇	
「日系」與「滿系」	記者
東北鋁業概況（三統）	陳先舟
東北青年	
談交朋友	周若賓
化解矛盾	松江
異鄉吟	忍耐
文芸	
祖國的呼喚	李落
風砂的懷念	邵綠芷

第 13 卷第 6 期（民國 32 年 7 月 25 日）

短評二則	
所謂戰後問題	民
生產會議與東北	然

追懷抗戰中的英雄戰友与優秀青年幹部	劉清揚
世界戰局新形勢和我們的反攻準備	方紀
日本軍隊內反戰的暗流	鹿地亘著 劉列先譯
利用蘇聯領土轟炸日本問題	閔夢覺
再論東方問題—申論韓國獨立問題	馬義
法蘭西人民反抗納粹德國的鬥爭	石嘯冲
日本人民思想中的毒素能否根除？	
— 訊自一九四三年四月十九日「遠東概覽」	健生
冷言冷語錄	高崇民
有客從關外來	大風
東北青年（建立實事求是的作風）	許明
個人与社会	正宇
睜開眼睛走—贈給琴—	忍耐
他的情人	蘇聯梭巴列夫著 秋風譯
編後	

第 14 卷第 1 期（民國 32 年 8 月 25 日）

短評 擁護宋外長談話	傑
苦悶何為	民
教育質疑	民
「天皇」是什麼東西	張友漁
朝鮮沒有屈服	肯特著 陳先澤譯
法蘭西人民反抗納粹德國的鬥爭	石嘯冲
東北鉅業概況	陳先舟
甘涼間牧業近況	波然
北平現狀一瞥	于生
引火	李歌
夜曲	胡翼
小生命	蘇聯巴甫林科著 秋林譯

第 14 卷 2 · 3 期（民國 32 年 9 月 18 日）

東北人紀念九一八	本社
東北与中国之命運的展望	莫德惠
東北是第二次世界大戰的策源地	楊傑
我与東北	黃炎培
紀念九一八并悼「九一九」慈母逝去兩周年	劉清揚
檢討九一八与收復東北之準備	王卓然
第二次世界大戰的起點	韓幽桐
反攻九一八禍首人類的公敵	李夢庚
略談招致東北青年問題	金長佑

怎樣紀念十二周年「九一八」		陳先舟
控訴与呐喊		石嘯冲
日寇在東北軍事工業的發展	皮古列夫斯加雅作	林升詒
九一八紀念与東北青年		金敏
九一八与抗戰文学		羅
民族英雄賀蘭泰		吉
「九一八」放歌		江屏
鬼子心		王語今
東三省的木材 (封面)		王琦

第 14 卷第 4 期 (民國 32 年 10 月 15 日)

短評 韓新猷機		
東北戰区機構		
擬建議国民參政会請政府加強收復東北失地準備案		王卓然
勝利不許有折扣		王卓然
「勝利有折扣」 ?		孫懷洪
日本將爆發「右翼政變」 ?		張友漁
日本資本主義現況及大眾的将来	清山和夫著	劉列先 詒
日寇榨取東北資源的檢討		松江
談理性生活		胡翼
歌者		劉黑枷
失業貨車	日本・小林多喜二作	夏迪蒙 詒
封面木刻		劉鉄華

第 14 卷第 5 期 (民國 32 年 11 月 15 日)

救濟東北青年 (短評)		然
三国会議的成就		韓幽桐
巴多格里奧政府应当民主化		伍夫
国都与東北		康国棟
日本資本主義現況及大眾的将来	清山和夫著	劉列先 詒
日本開發東北成功了 ?		東橋
南斯拉夫的遊擊戰爭	蘇・布衣尼茨著	衡矛 詒
東北青年對於勝利前途應有的認識		白泉
憶 沽		王珪平
二十年後	美・亨利著	劉退 詒
封面設計		王
活躍在東北的義軍健兒		刃鋒

(にしむら しげお 大阪外国語大学)